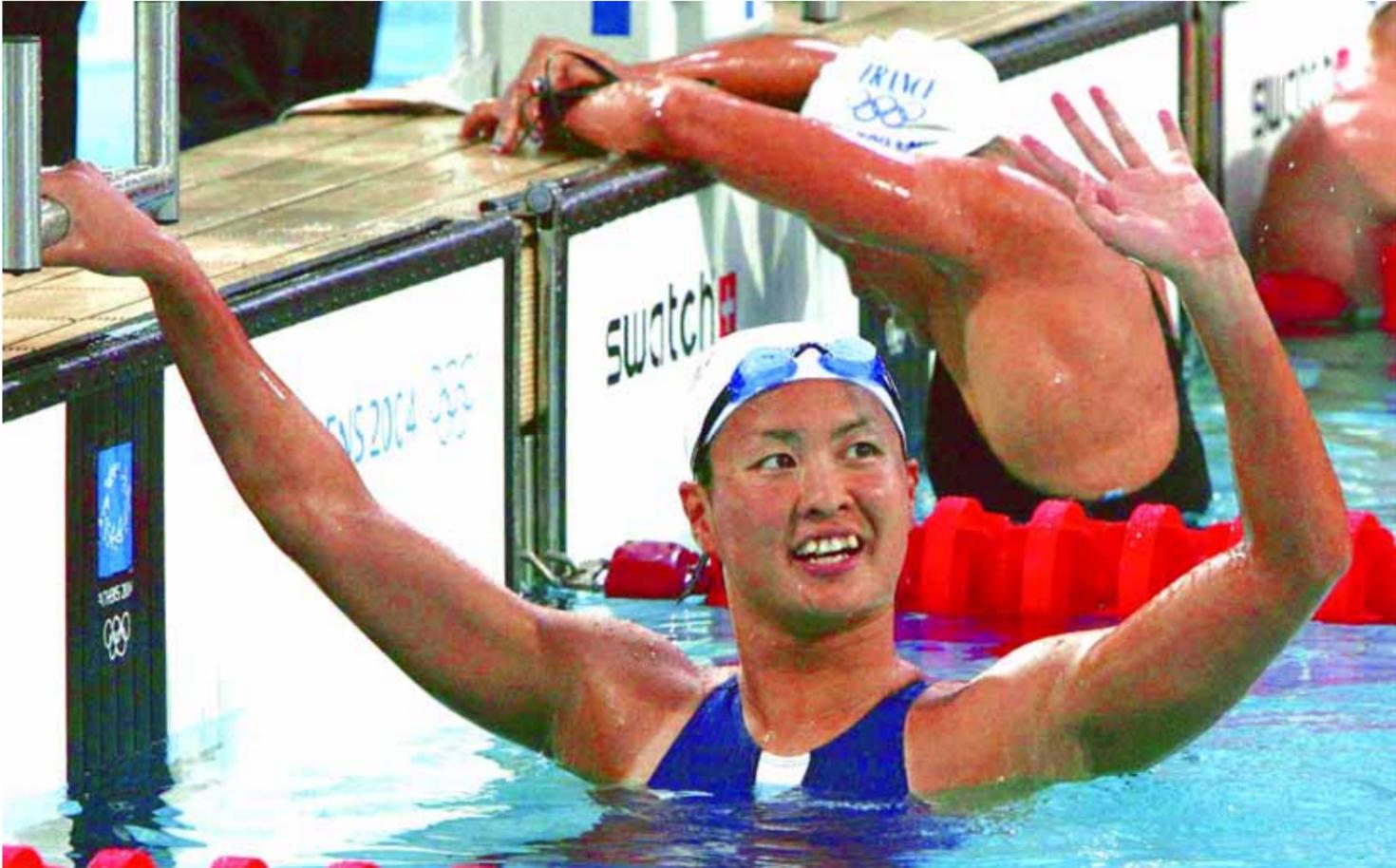


柴田殊勲の金



女子自由形で初のメダル

女子800メートル自由形で金メダルを獲得し、観客の声援に応える柴田亜衣。後方は2位のマナドゥ
＝水泳センターメーンプール(共同)

【アテネ二十日共同】アテネ五輪第8日の二十日、競泳女子八百メートル自由形で柴田亜衣(22)＝鹿屋体大Ⅱが金メダルを獲得した。競泳日本女子の金メダルは一九三六年ベルリン五輪二百メートル平泳ぎの前畑秀子、七二年ミュンヘン五輪百メートルバタフライの青木まゆみ、九二年バルセロナ五輪二百メートル平泳ぎの岩崎恭子に次いで史上4人目。女子自由形で日本選手のメダルは史上初。柴田は徳島・穴吹高校出身で大学に進んで急成長し、初の五輪出場。今大会では四百メートル自由形でも5位入賞を果たしていた。

「金が取れると思ってなかったのですが、すごいびっくりしています。夢かなと思います」。競泳の女子八百メートル自由形で、柴田亜衣選手が金メダルの快挙を成し遂げた。右手で何度もガッツポーズ。笑顔がはじけた。自己ベストを上回るペースでぐんぐん飛ばした。最後の百メートルでフランスの選手をかわし、トップでゴールした。柴田選手の父条二さん(52)はレース前「メダルを取るのには甘くないだろうが、自己ベストを出して悔いのないレースをしてほしい」とエールを送り「オリンピックが去年だったらまったく歯が立たなかった。記録を伸ばした今年と重なり、ラッキー。頑張ってたほしい」と明るく話していた。スタンドには、徳島県立穴吹高校の生徒が寄せ書きした「頑張れ! 亜衣ちゃん」の横断幕。両親やいとこ、高校時代まで徳島県で指導したコーチら8人がおそろいの紺色のTシャツを着て応援した。